

図画工作

図画工作科における令和4年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

- ・学習した基本的な技能についての知識の定着は感じられるが、各題材で応用する姿は少ない。
- ・スモールステップで課題を設定することで、作る手順や方法を理解して取り組む姿が見られた。
- ・題材のめあてを失念して作品を完成させる姿がある。
- ・展覧会の観賞の授業では、ほとんどの児童が友達の作品をほめる言葉を使って感想文を書くことができた。

図画工作科における課題

- ・基本的技能の学習を続け、(描画・木工・粘土等)既習の技能を各題材で取り入れる応用力を高めること。
- ・課題のめあてを意識しながら、見通しをもって造形活動に取り組む力を高めること。
- ・自分や友人の作品、身近な作品を尊重し、それぞれの個性を認めて良さを感じられる感性をさらに高めること。

図画工作科における改善策

- ①基本的技能の学習を続け、(描画・木工・粘土等)既習の技能を各題材で取り入れる応用力を高めること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・身体全体を働かせ五感を使って活動する力を養うために、「切る」「貼る」「ちぎる」「積む」「並べる」「つなぐ」等のいずれかの動作を取り入れた題材を設定し、何度も繰り返し取り組める環境を整える。 ・各題材に取り組む際に、思い出して応用できるように、技能に親しみをもてる名前を付けて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりや彫刻刀など道具の使い方の習熟を図るため、基本の取り扱い方を繰り返し指導し、安全に扱うことができる技術を指導する。 ・前題材までに学習した新しい道具を図工室内に用意することで、常に各題材で応用できる環境にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の特性や安全な使い方を身に付けさせるために、電動糸のこぎりなどの高度な道具を使用する際は安全管理について丁寧に指導する。 ・自分の表現したいものに合わせて既習技法を応用できる力を養うために、様々な技法を取り入れた参考作品を提示したり、用具や材料を繰り返し試したりできる環境を設定する。

- ②課題のめあてを意識しながら、見通しをもって造形活動に取り組む力を高めること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・題材のめあては、授業のたびに全員で確認し、板書して常に見られるようにする。 ・児童が見通しをもって題材に取り組む力を高めるために、簡潔で分かりやすい言葉による説明で制作手順を板書し、ICT 機器を用いて視覚的な資料を使用して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が題材のめあてに対しての達成度を自分で確認できるように、めあてを段階別で提示し、授業のたびに確認する時間を設ける。 ・参考作品を見せながら全体の流れを確認した後に本時で取り組む内容を伝えることで、見通しをもって取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを段階別で提示し、達成度を授業のたびに確認してワークシートに記入する時間を設ける。 ・参考作品を見せながら全体の流れを確認した後に本時で取り組む内容を伝えることで、見通しをもって取り組めるようにする。

- ③自分や友人の作品、身近な作品を尊重し、それぞれの個性を認めて良さを感じられる感性をさらに高めること。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現したり鑑賞したりする態度を養うために、題材ごとに鑑賞の時間を設けて互いの作品の良さを共有させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の個性や良さを感じる感性を高めるために、鑑賞の授業では話し合い活動の時間を設け、協働的に学び合えるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の個性や良さを感じる感性を高めるために、美術作品を鑑賞して色や形などの造形的な特徴や表現の意図を伝え、感じたことを言葉で整理し伝え合う機会を設けていく。